

巻 頭 言

同窓会ニュース「ふね」および「会誌」の表紙絵として、白草俊也氏(大学25期)による作品がすっかりおなじみとなりました。これまでは船の美しいスケッチが続きましたけれども、今号では夏らしく蠶螂の登場となりました。同窓会会員のみなさまには、夏負けせぬようご自愛をお祈りいたします。

さて、船舶工学科同窓会ニュース「ふね」31号をお届けします。「ちょっといい冊」を規定課題といたしましたが、自由課題としてお寄せいただいた原稿のほうが多かったようです。ありがたくも、編集部で予想した以上に原稿が寄せられ、ために冊子サイズを従来の2倍とすることにいたしました。

「会誌」8号で最新の会員録を発行したばかりなのですが、その後も変更のご通知ご連絡を多くいただいております。また、編集部の誤りに対するご指摘もいただき、申し訳ございませんでした。今後とも、ご自身あるいはご友人に住所変更などがございましたら、事務局へお知らせくださるようお願い申し上げます。

編集委員長 定兼廣行

教室人事異動

◇片山 徹 助手(本学大学院工学研究科博士後期課程修了)
平成10年4月1日付けで海洋システム工学科に助手として新任

がんばれ、
フレッシュマン!

◇西尾 茂 助教授
平成11年4月1日付けで神戸商船大学商船学部にて助教授として赴任

さようなら、
でも、いつでもお会い
できますね!

◇THOMAS GEORGE 講師
平成11年3月31日付けで退職、カナダ移住。

さようなら、
でも、ネットワークでいつでもお話しできますね!

◇大塚 耕司 講師
平成11年10月1日付けで助教授に昇任予定。

新たなスタート、
おめでとうございます!

ちよつといい一冊

— 藤沢 周平 —

大学12期 杉山 和雄

まだまだ若いと思っているうちに早還暦を迎える年となり、それを機に生きて来し方を振り返ってみて、かつて理想で胸一杯であった学生の頃に抱いていたように、文化の香り高く心豊かに過ごしてきたか、書物に親しみ音楽を楽しみ、春に花を愛でに出かけ、秋には紅葉の里に足をのぼし、身体を鍛え趣味に興じ、時には旅に出て文化遺産や歴史にも触れ、稀には見目麗しい女性に出会って心を躍らせる、そんな日々であったろうか、自問自答することが多い。

光陰矢の如しというように大変早く時が過ぎて意外と短かったようでもあるし、あの時はこうだったこの時はどうだったと順次思い返してみると、結構長い時間であったようでもあるが、もっと多くのことができたのではないか、なんと無駄に過ごした時間の多かったことかと、惜陰の念禁じ難く、内心忸怩たるものがあるのは否めないが、期待していた割にはそう大きな波乱もなく、平々凡々と無事に過ごしてきたこと、これはこれでよかったのかなあと思い慰めている。

とはいうものの、少しは人並みに努力して何でもやってみようと、各方面にわたってあれやこれやと試みてきたが、才能の問題もあり不満足なのは仕方のないものの、それなりに人生を賑わせ潤してくれたこともまた事実である。

ところで卑近な楽しみの一つに嗜好品があるが、甘党の方で酒の楽しみを知らず、長年その香りを楽しんだタバコ(ピース)もある日突然止めて足かけ9年、爾来コーヒーがいつそう好きになり紅茶にも目がない。共にその香りを楽しむのが一番で品種、銘柄にはあまり拘らず何でもやってみ

よう派であるが、香りを大切にしたい紅茶に関して、強いて贅沢を言わせていただくと、ロンドンはピガデリーサーカス近くのフォトナム・メーソンでの量り売りの名品が一番だと思っている。一人静かに楽しむのも最上だが、数人でテーブルを囲んで談笑しながらというのも悪くない。若い頃であれば2人で向き合っ心ときめかすと言うのはまた格別で一杯のコーヒーから恋の花咲くこともあるというのも確かのようなのである。

閑話休題、今回のテーマである読書に関しては、本を買って読んで積んで置くのを得意とする方で多くを読んだとはどうい言えないし幅広く読んだとも言いがたい。堅苦しいのは苦手なので自然と肩の凝らないものが多く、そんな中から選ぶのは大変おこがましいことだと思うものの、こんな機会があれば是非薦めたいと思っていた作家のものの中から代表作と思われる長編時代小説「蟬しぐれ」(藤沢周平著)を推薦することにする。

これは数年前友人からちよつといい作家がいると初めて氏の本を頂いてから、その著作に魅せられどんどん読み進んだが、その殆どが大変品格の高い端正で質のよい時代小説であり、ややもすると現代にも通ずる話が多くどれを選んでもよいものばかりだが、何度読み返しても時を忘れて読み進み感動に浸れる本編を挙げることにした。

内容は作者自身の出身地山形は庄内藩十三万八千石を模して創造された、七万石の海坂藩を舞台に展開される微禄小身の平藩士牧家のせがれ文四郎を主人公に、2人

の仲間との固い友情と隣家の娘ふくとの爽やかな淡い恋という青春の清々しく澁刺とした状況から物語は始まり、そこに鏝められたこの作者特有のすばらしい自然描写にも支えられ、一気に引き込まれてゆく。やがて文四郎が尊敬し敬愛してやまない親父殿が、藩の政道を正そうとするも、逆臣の汚名を着せられ、命により切腹をして非業の最期を遂げる。その亡骸を文四郎が一人で引き取りに行き、荷車に乗せて家に牽き帰る姿は、厳しさ寂しさの極である。途中家中の心ない人々の嘲笑の中、悲嘆と疲れで倒れそうになりながら、坂道では途中であった剣術道場の後輩の後押しを受け、さらに「ふくはそばまで来ると、車の上の遺

体に手を合わせ、それから歩き出した文四郎に寄り添って梶棒をつかんだ。無言のままの眼から涙がこぼれるのをそのままに、ふくは一心な力を込めて梶棒をひいていた。」に至っては涙なしには読み進めない、

それでもなお、禄を減らされた家と父の遺言通り母を守って懸命に生き、またも派閥争いに巻き込まれながらも真摯に対処してゆく様を一気に結末まで読み進みたくなる。これはやはり読み応えのある第一級の作品に間違いなく、敢えて「大変いい一冊」と言いたい。まだ読まれていない方々には是非ご一読されることをお勧めしたい。

特集:ちよつといい一冊



「エドの舞踏会」と山本権兵衛

—山田 風太郎—

大学25期 岸 光男

双方の老いた両親、ままならぬ子育て、怠惰なダンナ、という諸問題に窮した私の配偶者が、「路頭に迷わせるようなことはしないから、仕事を辞めて、家事に取り組む専業主夫になってもらえないか?」と、私に突然もちかけてきた。我家は共稼ぎである。家庭内に困難な問題を抱えた局面では、奥方が仕事を辞めるというのが日本社会での一般的な方策であろうに、私の配偶者は奇策を考えついた。ところが、説明を乞うてみると、それは冷静で合理的な分析にもとづいていた。

簡単に拒絶するには惜しい話だったので、幾夜も考えぬいた末、私はとうとう「諾」と回答してしまった。そのとたん、私の配偶者は以前にも増してデカイ態度をとりはじめたの

で、私は慌てて先の答を撤回した。専業主夫が甘んじねばならぬであろう屈辱的未來を感じとったのである。ということで、我家の諸問題は解決されぬまま今日に至っている。

ところで、この話を専業主婦の立場になって見直してみよう。彼女たちは「いったい誰が喰わしてやってるんだ!」とダンナにデカイ態度をされ続けているわけで、そのために彼女らは停年退職後のダンナをアッサリ離縁してしまうのであろう。強者のデカイ態度は弱者をいたく威嚇する。たいていの男は、無意識のうちにそういう態度になってしまう。しかし、山田風太郎作「エドの舞踏会」(ちくま文庫)の山本権兵衛は違う男だった。

薩閥の代表的軍人・政治家であり、海軍大臣や首相をいくたびも勤めた山本権兵衛は、若かりしとき、妻になる“登喜”を品川遊廓から盗みだした。権兵衛の同僚や部下たちが、カッターを遊廓の裏の浜辺に漕ぎ寄せてくれたの

だ。祝言の夜、権兵衛は次のような誓約書をしたため、登喜に渡した。

「一、夫婦はたがいに礼儀を守る事。

一、夫婦むつまじく生涯たがいに不和を生ぜざる事。

一、夫婦たるの義務を破るにあらざれば、いかなる事実あるも決して離縁を許すべからず。

一、一夫一婦は国法の定むる処なれば、誓ってこれに背かざる事。……」

等。登喜にもよく読めるように、漢字にはフリガナをつけてあったという。登喜は嗚咽した。

山田風太郎といえば、荒唐無稽な忍法物や明治伝奇小説を思い浮かべる。“エドの舞踏会”も、鹿鳴館の女たちにまつわる興味深い真実と虚構とからなる娯楽小説である。けっして文学作品ではない。であるからこそ、感動的な場面も多い。私のように、繊細な感受性に乏しい男は、このような類の小説でないと反応できないのだ。あまり気に入ったので、卒業生の結婚式で権兵衛の誓約書を披露したこともある。ただし、私自身はその誓約書どおりにはいかない。

おそらく、権兵衛と登喜は誓約を守りとおした。なぜなら、“エドの舞踏会”は次のように終わっている。

『……昭和八年三月、……八十二歳の山本権兵衛は前立腺ガンで病床にあったが、それまで看護にあたっていた妻の登喜子が姿を見せなくなったのを怪しみ、妻もまたガンでたおれて臥していることを聞いた。自分の病名を知らされたときは顔色も変えなかった豪胆無比のこの老人が蒼白になった。

やがて彼は、椅子に坐ったまま運ばせて、病床の妻を見舞った。妻は涙をたたえながら、感謝の眼を枕頭に移した。そこには、はるか明治の昔、夫が祝言の夜、自分に与えた例の「誓約書」が黄ばんで置かれてあった。

権兵衛は妻の長年の労苦をねぎらい、永別の敬礼をして去った。……』

特集:ちよつといい一冊

アトム —手塚 治虫—

事務局 太田 裕子

今回学内編集委員のK先生のご命令により、あっ、いえ、ご厚意により特別にお仲間に入れていただきました事務局の太田です。最近とみに感受性が鈍くなってきており、「ちよつといい一冊」が即座に浮かばなかったことから、私事で

恐縮ですが、読書体験の原点(?)である「アトム」への思いにどっぷり浸ってみたいと思います。特集のテーマからははずれていますが、よろしければ少しおつきあい下さい。

かつて— 遠い遠い子供の頃 —私はけっこう本が好きでした。3時のおやつより本が好き、とまではいきませんが、お菓子を食べながら誰にもじゃまされずに初めての本を読み耽るのは私にとって至福のひとつでした。

もちろんマンガも大大好きで、「空を越えて、ラララ、星のかーなたー…♪」のメロディーと共に思い出すかの「鉄腕アトム」が本好きになった、というか一人で読書(?)するきっかけのひとつだったかもしれないと思います。(これでもう、年がバレちゃいました。)

もうストーリーもそのほとんどを覚えていませんが、後に放送されたTVアニメのただただ強くて正義の味方のアトムとは違い、元々の彼は私にはとても哀しい存在に思えました。誰よりも強くてきれいな優しい心を持ち人間らしくありたいと思いつつ、決して人間にはなれず成長もできないロボットという存在。何かとロボットは人間とは差別されアトムはその優秀さ故に学校のガキ大将にいじめられますが、ロボット法で人間を傷つけてはいけないことが義務づけられています。アトムの親友のケンイチ君とこのガキ大将が、たしかアトムへのいじめを巡っての議論から教室中大乱闘となる数コマがありました。担任のヒゲ親父先生は学級会の始めに「あー、諸君しっかり議論したまえ」とか言って後はまったく子供にまかせっきりで教卓の上で居眠りをしています。結果、ケンイチ君はボコボコのこぶだらけになりながらアトムをかばい、そのガキ大将を理屈で負かすのです。そのときのガキ大将の言い分が「チクショウ、口ではおまえにかなわねえや、あとでみてろ」だったと思います。なぜこの場面をはっきり覚えているのか、まあ、ケンイチ君がとてもカッコよく後でやられないか心配だったからだけでしょうが、今思うと暴力に屈しない民主主義の意味や、たぶん手塚氏の理想とする教育観を、何とたった数コマのマンガで表していたのです。

「アトム」の数多くのストーリーの中にはすでに自然破壊をテーマにしたものもありました。手塚氏がこれを描いたのはまだせいぜい昭和30年代の初め頃だと思います。東京の武蔵野の自然を開発によって破壊したために、ある科学者が動物たちをコントロールして人間に立ち向かわせる、といった内容で、いわば人間による二重の自然破壊というものでした。当時でも内容の重さになにか感じるものがあったのでしょうか、それともその科学者がとても可哀想だったためか、後に観たヒチコックの「鳥」という映画ともだぶってこのストーリーも印象に残っています。

手塚治虫氏のマンガも後年のものはあまり読んでいないのでそれらを含め、特にアトムや「ロック冒険記」等初期の少年向けのものはいつかもう一度読んで、彼らに再会してみたいと思っています。ここに書いた感想はたつぷり数十年前の記憶だけを元にしたものなので結構いい加減かも、いえ、かなりデタラメな、独りよがりの、思い込みかも…だったら世の中の手塚ファンの皆様、ゴメンナサイ。

ちなみに中学、高校と成長するにつれ、情けないことに私が読むのはロクでもないマンガや肩の凝らない推理小説などがほとんどになってしまいました。そのかわり学生時代は映画館通いにうつつを抜かし、くだらないものも含めて随分観ました。当時年間100本以上は観ていたでしょうか。映画で感動して原作を読むと、こんな単なる娯楽小説からどうしてこのような映画が作られたのか—この逆の方が圧倒的に多いのですが—と思うものに出会うこともあり、それもまた面白いと思います。

そんな様々な作品の中には今も心に残っているいくつかのもの「私のアトム」たちがいて、ややもすると大人の現実的価値観に支配されそうになる自分自身を、時折、別の方向からも見つめさせてくれている…ような気がします。

10歳頃の思い出



大学3期 神谷敏雄

ついこの間までは「おじいちゃん」と呼ばれたら抵抗を感じていたのに、この頃では孫たちからそう呼ばれるとにこにこしている自分に何時の間にか変わってしまっている。5歳から10歳まで4人の孫がおり、することやなすことが可愛くてしかたがない。自分は今66歳だが、この子達が私の年になる頃には、世の中は一体どのように変わっているだろうかとつい考えてしまう。

今10歳の子に50年も前のことを話しても、既に歴史上のことになってしまっている。自分が生きて来たこの66年の間に世の中はものすごく変貌してしまったのだから、この先、いいも悪いもすっかり変わってしまう筈だ。

私の生まれた1932年(昭和七年)には上海事件があり太平洋戦争へと拡大の端緒の年であった。その後の世の移り変わりは我々の人生に大きく関わってきた。

逆に、1932年から遡って66年前の1866年(慶応二年)とはどのような時代だったのか。この年には薩長同盟があり幕府も内政どころではなく、物価の高騰や、凶作のため江戸時代を通じてもっとも多くの百姓一揆や打ち壊しもあり、世の中が騒然として各地に「世直し一揆」と呼ばれる大規模な騒動がおきていた。そしてその翌年には徳川慶喜の太政奉還が行われている。

では、現在100歳の人の場合についてはどうだったのだろうか。この人達の生まれた1898年(明治三十一年)は、自由党と進歩党(改進黨の後身)の合併により憲政党が結成され、そして、わが国最初の政党内閣が誕生した年である。もっとも、これはうまく行かず僅か4か月の短命にて再び分裂しているから、今の政党の合併分裂騒ぎよりすご

い。

これから更に100年遡って1798年(寛政十年)となると、前年に室蘭へイギリス船、更に5年前にはロシア船が根室に通商を求めて来航しており、鎖国政策にひびが入り太平の世が崩れる芽が出始めている。ペリーの浦賀来航はこれから55年後の1853年(嘉永六年)である。

なんだか歴史解説のようになってしまったが、私の強い思いは「人生は短いと言われるけれども、高だか人の一生の間に世の中はめまぐるしく変わってしまう」ということである。

さて、自分が孫の年頃の時代がどのようであったかは今でもよく覚えている。9歳の時に太平洋戦争が勃発し、大阪駅の近くにあつた私達の済美第五尋常高等小学校は済美国民学校と名称が変わり、勉強も遊びも全てのことが戦争一色に染まって行つた。そんなある日、受け持ちの先生が不在で隣の先生が様子を見に来られたときのことである。正規の授業はなくて、先生が皆に

「世の中には自分の目で見たくても見られないものがあるが、それは何だか分かるかね?」となぞをかけられた。私たち児童は小さな頭を絞っているいろいろ考え、次々と意見を出した。

児童「自分の顔」

先生「鏡があれば見られるよ」

児童「うしろ姿」

先生「鏡が二枚あれば見られる」

いろいろ意見が出たあと

「お月さんの裏側」と児童。このとき先生は

「今は見るができないが、君達が大人になった頃には、きつと、宇宙ロケットに乗って月も火星も見られるようになるよ」と。

「宇宙の果て」とまた誰か。それには

「大きな大きな天体望遠鏡を造れば、今よりもっと遠



くまで見えるようになる」との答。

「うわーっ、すごいなあ」

と、しばし戦争のことなどは忘れて壮大な気分ワイワイと
言って一時を過ごした。話が弾んで

「人の心の中は心の目で見ることができる。人の心を読む
とか、見透かすと言うのはそのこと」とか、

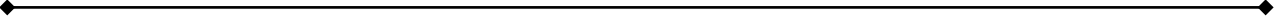
「一体<あの世>なんてあるのかな、ないのかな。もし、あ
るとすれば<この世>が終わりになれば見られるかも…」な
どと複雑。とうとう正解?が出ぬまま

「考えておきなさい」で終わった。しばらくの日がたって学
童疎開が始まり、私は親からも離れて一人で山口県萩の
奥地へ転校した。友達ともばらばらになり、この話は途切れ
たままとなった。

現在に戻る。私は今でも時々自分の目で見られないも
のは」と小学校の宿題を思い出し、<あの時、先生は一体ど

んな答えを隠しておられたのか」と考えることがある。

去年からコミュニティセンターにカラオケ同好会ができた
ので、私も入会して少しやり出した。自分ではうまく歌えて
いるつもりなので、テープに録音して自分の声を聞いてみた。
すると、他の人は私の生の声とテープの声が同じである
と言うのだが、自分ではそれが同じではなく、生の声の方
が自分の声らしくて良く、テープの声は借り物のように聞こ
える。これと同じように、たしかに<鏡>で見るのが自分の
顔なのだろうが、もしも直接自分の目で生の自分を見ること
ができれば、一寸違ったもっと良い顔に見えるのかも知れ
ないと思う。あの時の先生だったらどんな答えをくれるのだ
ろうか。



20人に聞きました/ちよつといいー冊

<ゲーデル・不完全性定理>
吉永 良正著 (講談社ブルーバックス)
数学には、証明できない定理があること
を証明したとんでもない定理!

<夜と霧の隅で>
北 杜夫著
第2次大戦下のドイツ。
抹殺されようとする不治
精神病患者を救おうとあ
らゆる治療を試みる医師の
苦悩を描く。

<海底のオーパーツ>
南山 宏著
海底遺跡は古代文明の謎を解くカギか?
それとも単なるオカルトか?

<ウォッチャーズ>
ディーン・R・クーンツ著
SF・生命操作の驚異。
愛犬家の方にどうぞ

<竜馬がゆく>
司馬遼太郎著
「自分ではない何か」のために
命を賭けた人間のお話です。

<背教者ユリアヌス> 辻 邦夫著
ギリシャ古典に傾倒し、異教の復活を企てた
ローマ皇帝ユリアヌスの魂の彷徨

<冷たい密室と博士たち> 森 博嗣著
緻密に織り上げられたストーリーが圧巻
の、理系ミステリー

インドネシアの技術協力から帰ってきました

大学6期 山路 隆一

関西設計(株)の定年退職ののち、嘱託として国際協力事業団(JICA)のインドネシア向け技術協力で平成8年8月から2年間従事しました。

インドネシア共和国労働省の職業訓練・生産性向上総局 生産性開発局に着任。引き続き NKK 及びその子会社から2人の専門家が着任。ジャカルタの総局での仮事務所の後、空調が整った11月初めに35キロ離れたブカシの職業訓練所にある開発局の事務所へ移った。

当局からの専門家への協力要請項目は概ね、全国的な生産性向上運動展開のアシスト、生産性協会設立構想の設定、向上運動展開の専門技術要員の養成、訓練用資料作成および訓練実施、上記システムの試行と評価など9項目と3年間の概略予定でした。

この技術協力には事前の開発調査に基づく協力議定書がないため赴任時に詳しい内容が判らず、企業の指導だろろう位の認識で着任したので行政支援要請に大いに戸惑い3専門家で任務の返上まで議論したが、まず出来る

だけ多くの地方労働事務所(BPPD)や中小企業を視察して、半年間で生産性の現状と問題点を把握しその後の方向を模索することにしました。

大統領令により労働省が過去十数年に実施した向上運動は、

日本等先進国で成功した生産性向上の具体的技術(QCC,TQC,5S,提案制度等)のみが現場主体に移転され、向上運動の基本的な精神的土壌が未開発で、特に経営者に必須観念と実施意欲が薄い、具体的な統計資料が皆無に近い、説得性のある行政施策の基礎資料や作成能力が不足している、中央・地方共に行政官に運動推進の行政的な能力が未育成であること等が判り、3年間の実施項目と概要を設定して互いに確認しあった。

半年経って本格化しだした時、日本労働省の力不足で、行財政改革のODA 予算削減のため他の2専門家が一年で帰任することになってしまいました。

一人になり協力項目を生産性向上運動展開の旗印(フィロソフィー)の樹立、経営者団体・労働組合連合と大学等学識経験者による運動推進の組織化(三位一体の推進母体)、counter parts (C/P)の教育訓練を兼ねた統計資料のデータバンク構築と行政施策への反映方策、中小企業への推進指導などに

絞ることにした。

以降様々な障害があったが、何とか実績を残すことが出来ました。

2年間は全く光陰のように過ぎ去ったが技術協力を通じて得たものは大きく、インドネシアの人たちは温和・従順・親切で、既に日本が失った伝統的な文化習慣を取り戻すべく見習うものが多いこと、かつて企業で汗して習得した全てが現場の状況に即して役立った、赴任してからインドネシア語を勉強し始めたが日常会話に不自由がなくなった、提案・提言などはすべて英語で済ませ英文構成力があがったことなどがあり、生産性に寄与する要素を考えるのに「多変量統計解析」を少し勉強しかけた。非常に面白い学問で生産性評価にも効果が大きいと考えられるが、関係団体でも個人的研究段階の様子で今後の課題であろう。多彩な経験を得ることができた。

古都ジョグジャカルタの街の真ん中には今もラジャ(王公)の住んでいる金を交えて豪華に彩色した王宮があり、午前中にガムランに乗って演じられるジャワダンスのたおやかさに夢中にさせられた。夜その踊り手たちのリハーサルがあるというので再度王宮近くの演舞場へ出かけた。ラーマヤナという王子と王女の冒険ラヴロマンスが衣装も

着けて演じられた。客は私一人だった。

夕風にラーマヤナの客我一人

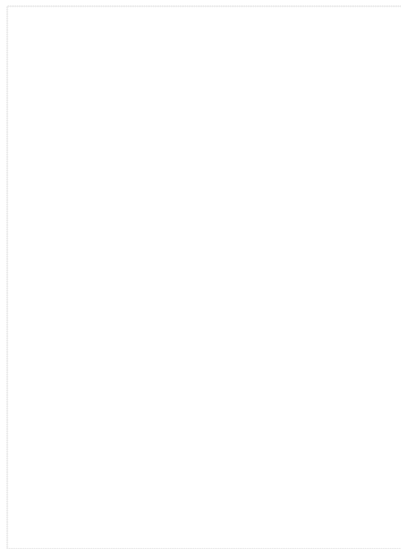
女性の指、足、下半身の優雅な動きに魅了しつくされた。彼女たちは日常どんな生活をしているのだろう、あのおやかさからは想像すべくもない。

ブランバナンは街の中心から車で20分そこそこ。広大でとても清潔な公園のヒンドゥーの石造の卒塔婆群。30mの塔を中心に東西南北に中位の塔があり、さらに数十の卒塔婆が日本の協力で修復されているが、後いくつ残っているか見当も付かないらしい。真ん中の塔の四面にガネーシャなどの神像が祀られていて、周辺の諸処彼処に小規模だが立派な卒塔婆が点在している。隣接した野外劇場でラーマヤナのバレエを見物したが、出演者も120、30人の大掛かりなショーで最後に背景の藁葺き小屋まで燃やす念の入れように圧

倒されたが、王宮ダンスの方がはるかに優雅で伝統的でジャワ文化をよく伝えていていると感じた。

仏教遺跡のボロブドゥルはジョグジャから約一時間。ジャングルに埋まっていたものが国際協力で修復された250m四方の基盤に高さ70mの卒塔婆。まるでピラミッドだ。6,7世紀の頃にブランバナナやボロブドゥルのこんな大規模の石造建築を完成させ、ガムランや宮廷ダンスなどの古典芸能も継承しているインドネシアは立派な文化国家といえる。

朝と夕方の景色が見たくて、公園の敷地内のホテルに一泊。小一時間かけて人気のない夕暮れの周辺を散策すると卒塔婆のシルエットが段々と色を濃くする。日の入りと同時に巨大な卒塔婆が茜色にそまった夕焼け空を背景に黒々と浮かぶ。夕闇から蟲の鳴声が途絶えることなく聞こえてくる中で一



際大きい食用蛙に似た野太い鳴声に
大守宮だと。

大守宮いづくの仏を守るらむ

早朝コーヒーだけで正面入口の開
門を待って険しい石段を昇る。三層に
区分された下界は俗世、お釈迦さまの
一生のレリーフが刻まれている。中界
の無数の小さい卒塔婆の中に仏像が
祀られているが多くが無くなっていたり、
お顔が削られていて痛ましい。最上界
は「無」の世界で卒塔婆の石にふ座し
て般若心経を声高らかに読経する。こ
こは仏教徒の巡礼の最終地だそうで、
香港の人らしき墨染めの30人ほどの
行列が読経しながら卒塔婆を巡ってい
る。地元の学生達が物珍しげに見守っ
ている。どこから来たのかと問うと10人
許りが集まって来て逆に色んなことを
聴いてくる。とても明るく楽しげだ。

平成10年5月14日、前日頼んで
おいた資料を中央情報局で受け取っ
てブカシに着いたのが10時半、数日
前から情勢が悪化していて警戒中だ
ったので本部へ所在確認の連絡を取
ると、高速道路は全て遮断された、一
般道路は群集の略奪が始まっている、
ジャカルタはあちこちで放火の煙が上
がっていて危険だからそこに止まって
様子を見ること、連絡を絶やすなと言
う指示である。局員達は局長が不在
でどうして良いか判らず困っている
と言うので、上級課長に全員で籠城
は出来ぬ故、すぐに局員達を帰宅さ
せよと正午までに退出させる。4,5
時間かかって徒歩で帰宅した人も
いたことを後で聞いた。午後3時頃、
ショッピングモールと思しき方角で
黒煙が上がっている。仕事を続け
ていても気掛りだ。午後7時になっ
て、近所に住んでいる課長が家で泊
まってもらってもいいが、近所のホ
テルの様子を見せるとサービシング
を自転車で行かせる。

30分程で戻って来て、ホテルは大
丈夫だし、案内すると。車で近づく
とスーパーの裏側の店舗から真っ赤
な炎と黒煙が猛然と吹き出している。
周りには群衆が群がってただ見守
るばかり。消防車などは勿論姿も
見えぬ。そこは駄目、右へ左へ迂
回して住宅地の細道をソロソロと
進む。民家の前には家族と心配げ
に成り行きを見守る大衆、

この人達は大丈夫だと感じる。歩
いても10分のところが1時間、ホ
テルへ入る橋の袂で10名許りの兵
士に誰何されてホテルへ避難と告
げる。避難客で部屋が塞がってい
てスペリアーしかない。チェック
インしていると日本から娘婿が携
帯へ安否を確かめて来た。安全な
ホテルに投宿したことを説明。安
心したが呉々も用心してくれと。
部屋へ入った途端に妻から電話。
早く連絡してくれないから心配ば
かりしていると。詳しいことを話
すと却って心配するだろうから大
丈夫だとだけ告げる。遅い晩飯を
終えて部屋へ戻るとルームサー
ビスが来て窓のカーテンをきちん
と閉めてくれ、光が漏れているの
で直していいでしょうか、投石さ
れる可能性があるのと。NHKが盛
んに各地の暴動や略奪の様子を
衛星放送で流している、日本での
心配は当然だろう。夜中1時間置
き位に威嚇だろう銃声がしていた。

翌早朝、道路を窺うとバスは走
っていないがその外は通行人も普
段と変わりが無いように見える。
ホテルの棟続きのモールは殆ど全
部ガラスが壊れている。タバ焼
き討ちにあった商店街は少なく
とも20軒が黒焦げている。道路
へ出てみると、車が二台亀のよ
うにひっ繰り返されていて、路
面はフロントガラスが散乱してい
る。局へついて本部へ連絡すると、
今は落ち着いているから直ぐに
家へ帰って閉じこもってくれと。

高速のトールゲイトは全くの無人。スー
ディルマン通りに戦車が居座っている。
最短時間で家に帰った。本部へ報告
すると後刻緊急避難の指示がある筈で
東南アジアへ出る積もりをせよと。切る
とすぐにポン友から電話があり、連絡が
とれないので心配していた、ホテルが
放火されたとかヤマはやられたかも知
れぬとゆう噂が出ていたぞ。オヤオヤ、
危険な状態だということは百も承知だ
が全てを掴んでいる訳ではないから、
自分では危険だとは思わないものよ
うだ。一週間分くらいの食料は買い込
んであるので食べる心配はない。大急
ぎで旅支度を整えてしまうと何もする
ことがない。3日間閉じこもったが、派遣
以来初めてのことだった。

18 日朝、午後2時半に本部へ集合
の指示が出た。追っかけるように連絡
が入って直ぐにホテルプレジデントへ
集合して待機せよ、関空へ帰ってもら
うと。機を見てバスでスカルノハッタへ行
くべく高速へ上がると至る所でビルが
放火の後を見せる、ジャカルタ大学周
辺が激しい。空港周辺は全く平穏だが
中はいつもと様変わりの雑踏、所定の
場所にラゲジを放置して空港ホテルへ
行ったが満室、レストランのコーヒー2
杯で4時間粘る。混み合ってきてても店
員は文句も言わぬ、却って客同士が譲
りあって椅子を増やさせる。プレシデン

トへ着いてから待つこと12時間、日本
航空の臨時便で関空へ。ジャカルタに
住んでいてこれだから、地方へ派遣さ
れていた人達は大変な難渋をして命
懸けの脱出だっただろう。カンボジアな
ど過去の経験を踏まえた政府要請で
の日本航空・全日空の臨時便手配が
素早かったのが本当に助かった。

緊急避難が解けても旅券の発行に
手間取って帰任するのに随分時間が
掛かった。ほぼ1ヶ月のフィは2月余り
の残り期間に付けが回ってしまった。
夜は遅くなるし休日も返上せざるを得
なくなってゴルフへも全く行けなくな
ってしまった。緊急避難から帰ってから積
み残した仕事に追われて身辺整理もま
まならず、帰任の前日に運送屋に来て
もらってやっと引越し荷物を半出してから、
事務所へ行ったが最終報告書の完成
や引渡し物件の書類の作成、事務所
の後始末のために、妻にも手伝わせて
帰任の朝は午前3時までかかってしま
った。帰途、早朝こんな時期にと訝られ
たのだろう検問に掛かってこちらへ来
てから初めてパスポートの提示を求め
られた。午前中に総局長や本部、世話
になった方々への挨拶を済ませて、正
午からの局長主催の送別会でお礼を
述べて出来立てのホヤホヤですと報告
書を手渡した。物件書類に局長のサイ
ンを貰って送別会を辞したのが午後3

時。猛烈な土砂降り。もう一度事務所
へ行くつもりが時間切れとなって、C/P
に後始末を頼んだ。

帰任後、人材銀行にも登録し、彼国
労働省へも働きかけたが仕事を得られ
ないので、ジャイカのシニヤボランテイ
アに登録、「造船技術」など2ヶ所の技
術協力を応募したが、ちょっとした不注
意で身体検査ではねられた。還暦をと
くに過ぎたが、まだまだ色々お役に
立ちそうなので、次の機会を期している。
再度のチャンスが得られれば、または
や家族を含めて周りの人達や同窓会
諸兄にもご迷惑を掛け、ご支援をお願
いすることになり申し訳ないが、頑張れ
る内は精一杯お手伝いしたいと願って
います。

21世紀の日本経済のキーワード

— 多様性と費用対効果の追求 —

大学26期 船岡 政紀

1. 規制緩和がマクロ分析を不透明にする

21世紀の日本経済を考えるにおいて、通常行うことは、経済活動結果であるマクロの指標を中心に考察することである。つまり、「実質GDP成長率がいくらかいかに」とか、「失業率がどのくらいになるだろうか」の議論を行う。

しかしながら、昨今の状況では、民間部門を1つの集合と考えて、政府部門による経済政策の良し悪しを論ずるだけでは不十分になってきた。この要因は、モノや資本の国境が低くなり、企業間競争が激しくなり、民間部門を1つと考えるほど平均的な集合体ではなくなってきたことが考えられる。また、政府部門の役割も変化してきた。

このように、マクロ的に把握しにくくなった個々の企業の営業活動に比べて、企業のヒト、モノ、カネの仕組みはそう大きくは変化していない。このギャップが20世紀末の日本経済の閉塞感を生んでいるように思われる。したがって、ここでは、ミクロの世界での出来事から21世紀の日本経済にとって重要なキーワードを探り、その対応を考えたい。

2. 閉塞を感じるミクロの現象

まず第1に、金融の世界を観察してみると、これほど閉塞感の強い世界はないだろう。少し挙げてみると、銀行

やノンバンクの不良債権、銀行のリストラ、証券会社の廃業、日経平均の低迷、生保契約額の減少などである。しかし、最も閉塞感の強いのは金融商品ではないだろうか。もちろん銀行においては1998年12月から投資信託の販売を開始し、また証券会社では国際分散投資型の投資信託が販売されているが、その仕組みは既存商品である。証券会社が販売していた投資信託を銀行が販売したからと言って、何も商品の本質は変化していない。金融商品をオリジネートする投資信託会社や投資顧問会社の仕組みが変化していないので、当然と言えば当然である。

第2に、大企業の業績悪化である。家電メーカーの日立製作所、流通業のダイエー、自動車の日産、など従来の景気変動では説明できないほど業績が悪化している。これらの企業に共通しているのは、対象ビジネスを総花的に行い、規模の拡大を追求してきたことにある。しかし、各分野では、専門に近い形を取った企業に競争を迫られ、敗退とまでは行かなくとも、停滞の状況に陥っている。

第3は、個人ベースの話で、特に中高年の失業問題である。会社の終身雇用に近い理念を信じて、営々とそれぞれの会社ベースの能力を高め、貢献してきた。しかし、企業サイドの理由から一方的に解雇され、足元をすくわれた

ような失業状態が増加している。中高年者の能力は、それぞれの企業ベースの能力であるため、必ずしも労働市場が要求する能力とはマッチせず、悲惨な状況となっている。

第4に、政府部門である。政府の役割は経済の発展段階に応じて変化する。たとえば、戦後のような所得の少ない段階では、「相互扶助」や「所得の再分配による公平性」の確保は重要だが、世界的に見て高度に発展した現在のような段階で、必ずしもこうした政府の役割が必要であるとは限らない。「真の弱者救済」のみが政府の役割かも知れない。前者の理念に固執し、歳出と歳入のギャップを赤字国債で埋めるという閉塞的な状況に陥っている。

3. キーワードは多様性と費用対効果

2.の事例をみると、こうした閉塞感を生んだ要因は、ミクロ活動という視点からすると、以下の2点が考えられる。

第1に、多様性の欠如である。2.の事例の金融商品で考えると、そもそも新しい金融商品というものは、資金運用方法の選択である。その商品が生まれにくいのは、資金運用方法決定前の段階で多様な議論がないからであろう。現在では幾分ましになったとは言え、以前の金融商品は、リスクの議論がなかった。そのリスクとは、国債や社債などの債券の価格変動リスク、株式の価格変動リスク、海外もの投資での為替変動リスク、また、国債(ロシアなど)や社債のデフォルトリスク、さらには売却したい時に買い手がいなくて売却できない流動性リスクである。こうしたリスクを認識して始めてそのリスク回避の議論が生まれ、その過程で新しい金融商品が誕生する。たとえば、デリバティブ組込みの金融商品などである。資金運用方法では、多様な議論が必要不可欠である。

中高年の失業問題でも個人ベースとは言え、同じ構造である。これらの年代層が若手社員であった頃、第2次オ

イルショックが起こり、企業規模の拡大が継続する可能性を否定された。現に幾つかの大企業が倒産し、どんなに大きな民間企業でも規模拡大を続け、永遠に発展するというのは幻想であった。しかし、こうした現実に対して、この年代層のほとんどが多様な解釈をせず、同じ幻想を抱き続け、バブルと言う最後の幻想に酔いしれた後、ようやく最後の審判が下された。

政府部門での多様性への対応はもっとまずいものであった。戦後の少資源国、低所得状態からの経済発展、もっと遡れば明治以来の経済発展の方法論は、単一であった。つまり、少ない資源(ヒト・モノ・カネ)を効率よく集中させ、輸入閉鎖・輸出拡大の経済発展論である。しかしながら、昨今の状況は、経済規模は拡大し、少なくとも世界的に見て、モノ以外の資源が少ないわけではない。そのモノも国境という垣根が低くなり、以前ほどの不足状況ではない。にもかかわらず、この方法論は「日本株式会社」の如く以前のままの単一であった。ある程度の経済発展を経た国では、次の発展のためには、多様化された方法論が必要になるが、政府部門ではまったく議論されず、外圧に晒されて初めてしぶしぶ対応している悲惨な状況である。

第2に、費用対効果の原則である。2.の事例の大企業における業績不振の原因は、費用対効果の経営がなされていないことにある。総合家電メーカーでは、他社が新製品を開発した場合、必ず同じような製品を開発する。その分野が重要な技術の蓄積となるのならまだしも「総合家電メーカー」という看板に拘り、とにかく進出する。結果、過剰な競争に陥り、その事業が不採算化する。費用対効果の原則が欠如している典型である。多店舗戦略の販売業者も同様である。確かに、店舗を増やしていけば、売上高は増加し、ある段階までは利益も増加する。しかし、その後不採算店舗が始めると、急速に全体の業績の足を引っ張る。これも、規模拡大の幻想に囚われて、この原則が欠如

している典型である。

4. 多様性と費用対効果の実現

3.のキーワードは相矛盾するキーワードである。多様化すれば、費用対効果の原則が働かない。そこで、これらを同時に現実化するにはどういったことが有効なのだろうか。1つは、これらの議論の進め方である。企業ベースで言えば、企画の段階である。それは、経営企画であり、営業企画であり、すべての分野での企画段階である。この手順を2段階に分けて考えることが、第1歩だろう。

まず第1段階は、第1のキーワードである多様性を主軸として企画ベースは限りなく広げる。現実・非現実という制約は設けない。日本のマイクロベースでは、この段階が省略されているか、形だけのケースが多い。そこで、企業組織として外部資源の活用が考えられる。小奇麗な提案をしていくコンサルタントではなく、多様な考え方を提案してくる外部の企画調査集団の利用である。場合によっては、日本に居る欧米人や日本人以外のアジア人の混成集団を一時雇用して、この段階の多様性を確保する必要がある。

こうした段階を得て、次の段階は現実化への絞り込みで

ある。この段階で登場するのは、第2のキーワードの費用対効果の原則である。単に過去からの延長線上で、現実的か非現実的かを判定するのではなく、これだけの費用をかけて、同等以上の効果ができるかどうかを判定の基軸である。この段階で活用すべきは、会計的感覚を持つ人間の参加である。社外取締役、経営感覚のある会計士や証券アナリストの利用も有効であろう。最終チェックとして、株主や監査法人の活用も考えられる。

参加する人は違っても、政府部門や個人の場合でも同様で、多様性を追求する段階を充分に行い、次に徹底した費用対効果のチェック段階を継続すればよい。このように、マイクロベースで各部門に多様性と費用対効果を実現することが、21世紀の日本経済でもっとも重要になる。

(「財経詳報」-財経詳報社-1999年1月5日号掲載)

MASA 金融・経済教育会

主要著書:証券アナリスト試験のための経済入門

-中央経済社-

証券アナリスト試験のための数学入門

-中央経済社-

20人に聞きました/ちょっといい一冊

★新入生に奨める本★

- ・池内 了:科学の考え方・学び方, 岩波ジュニア新書(1990)
- ・マーク・ピーターセン:日本人の英語, 岩波新書(1988)
- ・木下 是雄:理科系の作文技術, 中公新書(1981)
- ・立花 隆:エコロジ的思考のすすめ ー思考の技術, 中公文庫(1990)
- ・米国科学アカデミー編:科学者をめざす君たちへ, 化学同人(1996)
- ・坪田 一男:理系のための研究生活ガイド, 講談社ブルーバックス(1997)

<学力崩壊> 和田 秀樹著

精神科医としての立場から最近の日本の子供たちの学力低下を危惧し、識者、マスコミ、文部省の姿勢を批判。

立場は全く違うが、現職の中学教師である川上 亮一著<学校崩壊>と併せ読んでみると、興味深い。

最近、連日のようにテレビ、新聞等でダイオキシンのに関する報道がなされています。また、書店の店頭には「ダイオキシン」、「環境ホルモン」と題した出版物がならべられていますので、同窓生の諸氏におかれましても少なからずこれらの書籍を手になされ、なかにはこの問題に精通されている方もおられるものと思います。

みなさんご存じのように、「ダイオキシン」といえば都市ごみ処理施設がその元凶のようにいわれておりますが、なにをかくそう私は5年ほど前からこの都市ごみ処理施設の設計、建設に携わってまいりました。今回、同窓会誌に投稿する機会を与えていただきましたので、ここ数年急激に加熱した「ダイオキシン騒動」の中で、格闘しております実態をご紹介しますので、よろしくお願いいたします。

都市ごみ処理といえば環境工学、化学工学のイメージが強いのですが、実は大手造船メーカーのほとんどは環境ビジネスに着手されておりますので、同窓生の方々の中にも同業の方がおられるかもしれません。

都市ごみ処理施設の建設の仕事は、大きく2通りに分けられます。一つは施設の老朽化に伴う建て替えの場合で、基本的に施設全体を新設することになります。本来はこの業務がメインであり、他メーカーとの競争に勝つべく技術的、コスト的な差別化にしのぎを削っています。もう一つは平成10年に廃棄物処理法が改正されてから加わるようになったもので現状の施設からのダイオキシン排出濃度を低減するための改造工事です。これは廃棄物処理法に記載された排出濃度基準値を越えた施設のみが対象ですが、現状の半数以上が基準値を越えている上に、平成14年11

月末までに期限を切られているために、期限が近づくと駆け込み的な工事が予想されます。

都市ごみ処理施設から排出されるダイオキシン濃度に関しては年号が平成に代わったころには既に問題視されており、平成2年には厚生省よりダイオキシンの低減にか

かわるガイドラインが通知されました。ここには、焼却炉での燃焼方法や排ガス処理に関する各種運転条件が記載されていますが、ダイオキシンの排出濃度に関する基準はなく、また法的



な拘束力もありませんでした。ここでのアフターフォローの悪さが、現在各地のごみ処理施設で発生しているダイオキシン騒動の原因の一つになったともいわれています。平成10年に新たにダイオキシンの低減にかかわるガイドラインの通知と廃棄物処理法の改正が実施されてから、施設の発注仕様書の中にダイオキシン濃度が保証条件として記載されるようになり、確実な除去技術とともに競争入札に対応するためのコスト削減が重要視されるようになってきました。従って、ここ数年は確実にダイオキシン濃度を低減するために、実際に納めた施設を利用して、各種運転条件でのダイオキシン濃度を測定し、低減のためのノウハウを蓄積してきました。

ごみを扱う上で最も難しいと思われる点は、その性状が非常に不安定であるということです。ごみ処理場にはみなさんの家庭から出されるごみや、事業系といわれる会社等から出される可燃性のごみが毎日ごみ収集車で集められます。ひとことで可燃ごみといっても台所から出る厨芥類、紙類、プラスチック類から庭木の剪定くずまで種々雑

多です。また、同窓生の皆さんにはおられないと思いますが、燃えるごみとして集めているはずなのに、その中には、空き缶や針金はもちろんのこと、ひどいときにはパイプ椅子や小型の自転車が混入されている場合などがあります。

ダイオキシンの測定は、4時間の間排ガスを吸引し続けなければなりません。従って、この4時間の間は安定して施設を運転することが設定条件でのダイオキシン濃度を把握するためには最低限必要なこととなります。各種運転条件での排出特性を確認するために、焼却炉から煙突までの数箇所ダイオキシンを測定しているときに、前述したようなおおよそ焼却施設で処理するとは思えないようなものが投入されたりすると、焼却炉にごみを投入する部分でトラブルが発生したり、異常燃焼が発生したりして、泣く泣く運転を停止せざるを得ないような状況になったこともあります。現在でこそダイオキシンの測定費用は若干安くなったものの、2～3年前には1点の測定に50万円を越える費用がかかりましたので、一瞬にして百万円を越える測定が失敗に終わることも何度か経験してきました。このような苦労を重ねな

がらも最近では十分にダイオキシン排出濃度の低減が可能となっております。

廃棄物処理は、人間が生活している限り避けて通ることのできない問題です。現在の日本では一般ごみとして一日一人当たり約1kgのごみが排出され続けています。日本の人口が約1億2千万人ですから毎日12万トンのごみが出される計算となります。毎日排出される大量の廃棄物を如何に安全に効率よく処理するかが非常に重要になってきており、廃棄物処理に関わる自治体や関係業者はダイオキシンを始めとする各種有害ガスの低減に全精力を注いでいます。このようにして建設した最新鋭のごみ処理施設でも、前述したようにとんでもないものがごみの中に混入されておれば安定した運転が維持できなくなり、ダイオキシンも多量に発生してしまうこととなります。環境を守るためと、私たちの実験がうまく行くように、毎朝ゴミを出すときにこのことを少し考えていただければ幸いです。

20人に聞きましたノちょっといい一冊

<デミアン> ヘルマン・ヘッセ著
「鳥は卵の中から抜け出ようと戦う。
卵は世界だ。生まれようと欲するものは
一つの世界を破壊しようとしなければ
ならない…」
青春に捧げる不滅の一編

<天翔る白日> 黒岩 重吾著
7世紀、天武帝の時代を舞台に皇
位継承をめぐる2人の皇子の確
執。文武に優れ、人望を一身に集
めながらも謀反のかどで処刑され
た悲劇の皇子大津の生涯

<1984>
ジョージ・オーウェル著
全体主義社会、管理社会の恐怖を描
いた作品。

<いちご同盟> 三田 誠弘著
中学生が主人公。現役の中学生はもちろん、思春期のお子さん
をお持ちの方にも、かつて思春期だった方にも。

<買ってはいけない>
週間金曜日 発行
ぼんやりと感じていたことが、現実に見え
たことのショック！

新任の挨拶

どうぞ
よろしく

海洋システム工学科 助手
大学42期 片山 徹

平成10年4月から海洋システム工学科の助手に着任いたしました。

平成元年に学部(当時船舶工学科)に入学し、博士前期課程を経て昨年(平成10年)3月に博士後期課程を修了するまでの9年間を本学で過ごし、同年3月に博士(工学)の学位を取得いたしました。

私のこれまでの研究テーマは、博士論文では高速で航走する小型滑走艇に特有な不安定現象、特にポーポイズニングやチェーンウォーキングの発生機構の解明を実験的に行って来ました。現在では、滑走艇の性能評価手法に関する研究を行っています。

私にとって母校でもある本学において、研究・教育に携わることができることを嬉しく思っています。まだまだ若輩者の私ですが、今後とも一層努力を重ねていこうと思っておりますので、皆様の暖かなご指導・ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。

自己紹介

☆ 出身地

本籍地は和歌山県ですが、残念ながら一度も暮らしたことはありません。

私は、本大学の所在地である堺市で生まれました。5歳になるまで暮らしていましたが、当時の記憶はほとんどなく、唯一夏になると光化学スモッグの警報を示す旗が毎日のように近くの公園に掲げられていたことを覚えています。義務教育と高校および大学の学部を卒業するまでの間を奈良県で過ごし、大学院進学後は再び堺市で下宿生活を始めました。現在は、高石市に住んでいます。

—奥水間温泉への帰り、水間寺にて(1999年1月31日)—

☆ 家族構成

平成9年に妻「史子」と結婚し、昨年第一子「雄大」が生まれました。現在家族3人で暮らしています。

☆ 趣味

写真撮影、温泉浴、映画鑑賞です。

中学、高校と写真部に属しており、主に中学の時には

「子供と老人」の(白黒)写真, 高校の時には「動物」の(白黒)写真を撮っていました。(当然のことですが, フィルム現像から印画紙焼付けに至るまで全て自分で行ってました。)残念なことに最近では家族写真を撮影する程度となっていますが, 今後何かテーマを決めて再び撮り始めたいと考えています。

私はもともとオートバイや自動車に乗って出かけるのが好きで, 一年間で3万 km も走行したこともありました。学生時代に付き合い始めた妻が温泉好きで, 私のこのような趣味もあって, 日帰り外湯巡りに出かけるようになりました。昨年は妻の妊娠・出産があり温泉浴ができませんでしたが, 最近は(「雄大」はまだ入浴できませんが)家族3人でちょくちょく出かけています。

もっぱらビデオ鑑賞ですが, 博士前期課程の頃からよく見るようになりました。はじめは, レンタルビデオ屋で話題作ばかり借りていたのですが, そのうちねた切れになり片っ端から借りていました。今はその時と比べると数は減りまし

たが, 少なくとも年間100本は見ていると思います。

☆ 略歴

- ・昭和42年12月20日:大阪府堺市に生まれる
- ・昭和58年4月～昭和61年3月:県立奈良高校
- ・平成元年4月～平成5年3月:
大阪府立大学工学部 船舶工学科
- ・平成5年4月～平成7年3月:
大阪府立大学大学院工学研究科
博士前期課程 船舶工学専攻
- ・平成7年4月～平成10年3月:
大阪府立大学大学院工学研究科
博士後期課程 機械系専攻海洋システム工学分野
- ・平成10年3月:学位取得 博士(工学)
表題「高速滑走艇の不安定現象に関する基礎的研究」
- ・平成10年4月～現在:大阪府立大学工学部 助手

原稿募集 「私の turning point」

自由課題: 自由なテーマでお書きください。

規定課題: 「私の turning point」

分量: 2000字程度を標準としますが, 柔軟に対応します。

- ・原稿は, 郵便(原稿用紙やフロッピーディスク), ファックス, 電子メールなどでお送りください。
- ・写真やイラストつきの原稿も大歓迎です。その場合, 郵便で原本をお送りください。

しめきり: 平成11年10月29日(金)

宛先: 〒599-8531 堺市学園町1-1 大阪府立大学工学部海洋システム工学科気付

船舶工学科同窓会事務局 TEL./FAX. 0722-54-9914 E-mail ohta@marine.osakafu-u.ac.jp

メガフロートの波

海洋システム工学科 坪郷 尚

--- “メガフロート” --- とは、 10^6 mm オーダーの寸法を持つ超大型浮体構造体を意味します(私のみの解釈?)。

メガフロート技術研究組合の事を指す場合もあります。組合による定義では、ギリシャ語で“巨大”を意味する“mega”と英語で“浮体”を意味する“float”を組み合わせた造語である、となっています。メガフロートの用途・利点等については組合のホームページ(<http://www.dianet.or.jp/Mega-Float/>)にわかりやすい説明が載っています。従来の海洋構造物と比べて異なる点は、大きいために、相対的に柔らかい、とい

うことです。水深が数 cm の小型水槽に、OHP シート(メガフロート)を浮かべて波浪応答を調べた実験結果が報告されていますが、その程度に柔らかいのです。OHP シートの下には水があるわけなので、水(流場)に対しては、水面の圧力の条件が、大気圧の場合と OHP シートの場合(OHP シートの曲げ剛性の影響が加味される)で異なることとなります。ここでは、この圧力の条件の違いに起因するメガフロートの特性について、いくつか紹介します。

まず、メガフロートおよびその下の水(流場)の波の波長は、同じ周期の大気圧下の水波の波長より長くなります。メガフロートに水波が入射すると、メガフロート下では波長が長くなって、メガフロート下を通過し外に出ると、またもとの波長に戻る、というようなことが起こります。

次に、メガフロートのある 1 辺に対して斜めから水波が入射すると、波動は屈折してメガフロート上(或いは下)を直進します。ある角度(臨界角)以上の斜め波になると、もはやメガフロートには波が発生しなくなります。波長の短い

波は、ほとんど垂直に入射しない限りメガフロート上に透過しません。一方向不規則波(いろいろな波長の波の重ね合わせ)が入射すると、それぞれ波長に対応する角度で屈折し、分裂することが予想されています。

最後に、メガフロート上(或いは下)の波の、位相速度と群速度について触れておきます。これらは、通常の水波のものに比べ高速で、さらに水深が浅い場合には、位相速度より群速度の方が大きい、という性質があります。水槽において造波機で波を起こす場合には、

水波の位相速度の方が群速度よりも大きいという性質から、波群の先端では波が次々に消えていくのが観察されます。メガフロート上の波の場合には、群速度の方が位相速度よりも大きいという性質から、波群の先端では波が次々に現れることが予想されます。

このほかにも、セミサブ・タイプのトラップト・モードをはじめ、物理的に興味深い現象が幾つか報告されています。



20人に聞きました／ちよつといい一冊

<理由> 宮部 みゆき著
現在日本の様々な問題と人間の優しさが複雑に絡み合った社会派ミステリー。

<反逆> 遠藤 周作著
織田家臣たちの主君への反逆。下克上の戦国時代に信長とは対照的に、人間として悩み行動し破れた武将、荒木 村重の生き様を描く。

<セブンイヤーズ・イン・チベット>
ハインリッヒ・ハラ著
1939年、オーストリアの登山家H. ハラーは、ヒマラヤ登頂を目指したが、第二次世界大戦のため、インドでイギリス軍の捕虜となった。しかし、ハラは仲間と共に脱走し、ヒマラヤ山脈を越え、チベットにたどり着く。これは、チベットで若き日のダライラマの教師として過ごした7年間を振り返った自伝である。ブラピ主演の映画でも話題になった。

<五体不満足>
乙武 洋匡著
「ヒロスエ」と並んで最も有名な早大生乙武君の自伝。障害はボクの特徴、と笑ってのけるところがイイ。
「障害は不便である。しかし、不幸ではない」というヘレン・ケラーの言葉で締めくくられている。ボクらも、もっともつとがんばらないといけないよねえ。

<日本の障害者 その文化的側面>花田 春兆著
日本の障害者の歴史は日本の歴史と共に始まる。日本のアダムとイブ、「イザナギノミコト」と「イザナミノミコト」の間に生まれた子供ヒルコは障害児であった。未熟児による重度の脳性麻痺と推測されるが、この子は結局海へ流されてしまう。しかし、福の神として蘇り、恵比寿(蛭子)様となったそう。また、鎌倉時代の『一遍聖絵』には“いざり車”らしきものが描かれており、日本における車椅子の歴史を感じさせる。障害学・障害者福祉を考える上で大変面白い一冊である。

<実践経営哲学> 松下 幸之助著
何事にも理念が大切と説く。経営の神様が言うだけあって説得力がある。

**** 海洋システム工学科平成9年度および平成10年度修士論文ならびに卒業研究のテーマ ****

平成9年度修士論文

- 【池田研究室】新城外志夫：ウォータージェット推進型超高速滑走艇の抵抗推進性能に関する研究
公手 晃一：旅客船の耐航性能に関する実船実験
濱野 哲也：損傷船舶の波浪中運動特性に関する実験的研究
- 【岡田研究室】廣瀬 隆之：緊張係留式水中トンネル構造体の波浪応答推定システムに関する研究
劉 浩：係留系との複合モデルによる超大型浮体構造物の水平撓み挙動特性に関する研究
- 【奥野研究室】後藤かおり：海域環境に関する研究－由良湾における生態系シミュレーション－
高橋 英男：画像計測システムの高速度流への適用に関する研究
- 【岸 研究室】小倉 洋樹：陰影からの形状復元モデルによる空間デザイン
- 【西尾研究室】中尾 茂樹：画像処理技術による船体まわりの波高分布計測に関する研究
平田 奈美：統計解析手法を用いた流場の画像計測に関する研究－計測手法の開発と検討－
- 【馬場研究室】漆原 徹：進行する鉛直円柱まわりの自由表面波に関する研究
大坂 幹雄：密度成層キャビティ一流の混合に関する研究
原山 賢司：可視化実験による密度成層中における振動円柱からの渦放出に関する研究
- 【姫野研究室】沖本 憲司：時間平均速度勾配テンソルの第2不変量を用いた $k-\epsilon$ 乱流モデルの再構成に関する研究
木下 嘉理：パネル法を用いたアメリカ杯レース艇のアペンデージ性能評価ツールの開発
塚原 尚起：数値流体力学を用いた船型改良に関する研究
新里 英幸：船体付加物周りの3次元剥離流場の構造に関する研究
劉 文新：CFD 援用最適化問題のネットワーク分散処理



なお、沖本 憲司君は学科優秀論文賞を受賞

平成9年度卒業研究

- 【池田研究室】岡田 昌之：高速カーフェリーの性能評価に関する研究－Semi-SWATH 船型の性能特性－
奥村 英晃：高速滑走艇の操縦性能に関する基礎的研究－斜航船体に働く流体力の計測－
松下公一郎：損傷船舶の波浪中運動特性に関する研究－浸水区画の形状が運動に及ぼす影響－
板東 晃功：深層水取水管の挙動に関する研究
宮地 誠之：沿岸海域における生態系モデリングに関する研究－りんくう公園人工環礁域の生態系実地調査－
- 【岡田研究室】黒川 文宏：薄肉アーチ構造の大変形挙動と弾性強度について
田中 猛：曲げ・剪断を受ける薄肉箱型桁の弾塑性挙動について

酒本 孝典: 高張力鋼材の高サイクル衝撃引張疲労挙動について
吉田 大助: 鋼材の繰り返し引張圧縮荷重下の熱挙動について
重光健太郎: 柔軟船体構造モデルの波浪中弾性応答実験
田中 正治: 緊張係留された水中トンネル構造体モデルの波浪中弾性応答実験
八木 剛志: 超大型浮体構造モデルの波浪中弾性応答実験

【奥野研究室】上田 幸蔵: 壁面摩擦応力の画像計測手法についての検討
陳 波 : 流場モデルを用いた画像計測に関する一考察—PIV 標準画像を用いた計測手法の検討—
細野 淳: ウェーブレット変換を用いた画像解析に関する基礎的調査
井手伸武輔: 生態系モデルに関する基礎的調査

【岸 研究室】藤田 真司: バーチャルリアリティによる形状デザインに関する研究—立体視の環境設定—
山西 隆宏: ニューラルネットワークによる時系列データ処理—心電図の測定ノイズ部検出への応用をめざして—
横関 敦 : 3次元レゴ構造の最適化設計

【西尾研究室】中村 研 : 多関節翼からの渦放出過程の可視化と計測
黒田 敏史: 粒子画像流速測定の実験システムの構築について

【馬場研究室】鹿島 孝之: Rayleigh-Taylor 不安定現象に関する実験
合田 憲和: ラグランジュ座標系での歪テンソルをもとにした流体混合の定量的評価について
阪口 泰規: 河口域における振動重力流のモデリング

【姫野研究室】中村 隆 : 主船体の揚力効果を用いた高速船型の検討
西田 隆司: アメリカ杯レース艇のアペンデージ性能に関する研究—CFD により推定した流場と流体力の検証—
四手井 肇: 競漕用ボート(エイト)の効率的漕法の検討
潮先 亮 : 温度と密度を含む3次元流況計算コードの検討

【細田研究室】名雪真未子: 持続可能な発展のための環境アセスメント—海の視点からのシナリオ作り—
藤川 悟 : 廃棄物の海上処理へのアプローチ
平井 達之: 乗り物酔い発症時の表情変化の解析
道免 雅章/村田 和義: フェリー・旅客船の乗り心地評価



なお、西田 隆司君は平成9年度学科賞を受賞。

奥村 英晃, 阪口 泰規の両君は日本造船学会奨学褒賞を受賞。

平成10年度修士論文

【池田研究室】穴田祐二: 水平没水四角柱の波力減少に関する研究
西村里和: 高速カーフェリーを用いた海上交通システムのフィージビリティスタディ

田嶋慎一郎: 高速滑走艇の操縦性流体力に関する実験的研究

【岡田研究室】植木貴之: 線状浮体構造の動的弾性挙動と不安定現象に関する基礎的研究

垣田岳史: 長大バージ型浮体構造の信頼性設計支援システムに関する研究

高木一彰: マット型浮体構造物の動的崩壊過程解析システムに関する研究

吉岡典恭: 境界連続性を考慮した防撓薄板構造の最終強度解析法に関する研究

徐 哲: 浮体式環状人工島構造体モデルの動的弾性挙動と強度に関する研究

【奥野研究室】岩橋秀祥: 2次元非定常流れの画像計測に関する研究

中谷直樹: 海域環境予測モデルに関する基礎的研究

山崎健太郎: 陸域からの負荷を考慮した海域環境シミュレーション

【岸研究室】落 隆行: トラス構造のトポロジー節点位置同時探索問題への局所ルールに基づくアプローチ

水谷 靖: 水中でのフレキシブルパイプの自転に関する研究

【馬場研究室】岡村将治: 成層流体中における重力流の進行速度に関する研究

福庭哲也: 波による混合層の発達に関する研究

【姫野研究室】松本正平: 3次元剥離流場の特異性に関する研究

松山博志: 計算流体力学を用いた船尾形状最適化に関する研究

山中亮一: 湾内流の数値シミュレーションに関する基礎的研究 ー大阪湾への適用ー

吉田 豊: アメリカ杯レース艇バラスタバルブの流力性能推定法に関する研究

【細田研究室】古川哲治: システムダイナミクスを用いたゴミ処理過程のモデル化に関する研究

安元智裕: 乗り物酔い発症過程における脳波の変化に関する研究



なお、中谷 直樹君は学科優秀論文賞を、山崎 健太郎君は工学部同窓会優秀論文賞をそれぞれ受賞

平成10年度卒業研究

【池田研究室】井上久嗣: 洋上型深層水利用システムの経済性と取水管の流力弾性特性

田角宏美: 強風下における高速双胴船の港内操船限界に関する基礎的研究

日並貴成: 高速滑走艇の波浪中運動特性に関する研究

藤原峰生: 沿岸海域における海底環境に関する生態系工学的視点からの一考察

【岡田研究室】井上 心: 薄肉球殻構造の非線型挙動の計算

長田章秀: 長大マット型浮体構造モデルの波浪中弾性応答に関する実験的研究

塚本恭大: 実船体主構造の縦曲げ崩壊強度とその統計的性質について

山口忠則: 集中質量を有する経年変化模擬構造体モデルの波浪中弾性応答実験

信尾 勉: 軸力(引張または圧縮)を受ける有孔円筒の強度について

【奥野研究室】伊藤奈歩: 流場モデルを用いた画像計測

門阪薫平: 海域の生態系モデルに関する検討

辻本宗男: ウェーブレット変換による画像解析

【岸 研究室】上原弘樹: ブラインド信号の分離・復元問題

弓削篤史: たわみパイプの自転に関する実験的研究

【西尾研究室】成瀬祐希: 可視化画像を用いた船尾伴流分布の計測

【馬場研究室】伊藤聡美: 重力流の先端部の3次元形状に関する研究

深井英五: 斜面に沿って進行する重力流の計算

【姫野研究室】加藤正大: 回流水槽における2次元翼特性の実験

木下 仁: 平面に垂直におかれた円柱まわりの流れの可視化と計算

植田貴彦／林 豪: アメリカ杯レース艇のバラストバルブの形状改良

【細田研究室】野瀬浩一: 双極子追跡法による脳内電源の推定

藤田康宏: 河川からの汚濁負荷の要因分析(大和川, 大津川)

木戸信行: 雲種判別のための雲系特徴量の抽出について



なお, 成瀬 祐希君は平成10年度学科賞を受賞.

伊藤 奈歩, 井上 心, 藤原 峰生の3君は日本造船学会奨学褒賞を受賞.

通信欄便り

★会誌8号に対してのご意見ご感想を寄せていただきました★

菱田, 田中, 田口三方の名誉教授のお話は懐かしく平野氏の訃報は悲しいお便りでした. 私もいささか体調を崩し, 病院への入退院を繰り返しております. (I・造船3期)

会誌8号においては平野先生にお世話になった多数の先輩方や後輩の皆様方をさしおいて追悼の手記を書かせていただきありがとうございました. 私なりに心の整理ができた気がします. (T・大24期)

菱田さんの一文中, 動揺水槽造成に, 当時の造船科学生が汗を流した旨の記述がないのは残念. (N・造船4期)

会誌が大きくなり, びっくりしました, なかなか立派で… (S・造船5期)

皆様, ありがとうございます. これからもどうぞご意見ご感想をお寄せ下さい.

第 30 回 理 事 会 報 告

日時:1998年11月16日(金) 18:00～

場所:たかつガーデン

出席者:蔵野(造1), 田中(造3), 保田(造3), 千種(造4)
 神谷(大3), 金田(大5), 山路(大6), 大野(大8)
 増田(大10), 湯浅(大11), 杉山(大12), 出口(大13)
 吉久(大13), 定兼(大15) 以上学外理事
 岡田(大12), 奥野(大17), 池田(大21), 岸(大25)
 大塚(大35), 有馬(大37), 山田(大37), 片山(大41)
 山崎(大45), 田嶋(大45), 板東(大46)以上学内理事
 出席者合計 25名

開会挨拶:大野会長より挨拶があった。

議長選出:増田副会長が議長に選出された。

議事:

(1) 報告事項

a) 平成9年度会計報告

山田会計理事より資料に基づき平成9年度会計報告があった。(会誌8号掲載)

b) 平成10年度会計中間報告

山田会計理事より資料に基づき平成10年9月30日現在における平成10年度会計の収支報告があり, 会誌印刷費用が当初見込みより低く押さえられることが報告された。

c) 創立50周年記念会計報告

池田会計理事より資料に基づき創立50周年記念会計の収支報告があり, サマーセミナーが大学行事となったため50周年記念会計からの支出はなくなったことが報告された。

d) 工学部および全学同窓会関係報告

岡田理事より資料に基づき全学同窓会および工学部同窓会の動向についての報告があり, 大学としては創立50周年記念事業は行わないものの, 全学同窓会としては5,000万円規模の基金募集を行い, 名簿の発行は行わないこと等が希望として出されているので, 今後の推移を見

守る必要があることが報告された。

e) 編集委員会報告

岸編集理事より資料に基づき会誌第8号の編集状況について報告があり, 12月中には発送が可能であることが報告された。

(2) 審議事項

a) 平成11年度会計予算案

山田会計理事より資料に基づき平成11年度会計計画についての提案があり, 承認された。ここで, 役務費が高くなるものの, 印刷費が押さえられることにより, 例年並の予算案となったことが付け加えられた。

b) 理事交代に関する件

有馬会務理事より以下の理事交代1名, 新理事2名の提案があり, 承認された。

理事交代:

大学11期 安藤 修夫氏より 湯浅 滋氏へ交代
 新理事: 大学46期 板東 晃功氏, 西田 隆司氏

c) 同窓会名称および総会に関する件

奥野副会長より資料に基づき同窓会名称案を一般会員から募集するという提案があり,

- ・金田理事からは大学5期生が実施したアンケート結果が報告され, 「船舶・海洋システム工学科同窓会」が最多(61%)であったことが紹介された。

- ・名称変更を前提にした会員からの名称募集は時期的に適切ではない。

- ・会員からは名称変更その是非も含めて意見を聞く方がよい。

- ・名称を変更する際は, 理事会が責任をもって最終案を総会に提案すべきである。

など種々の意見が出され, 協議の結果, 提案を若干訂正し「名称募集」を「名称に関する意見の聴取」と変更する事が決まり, 12月発行予定の会誌に掲載することになった。

平成11年度会計予算案 (H11.4.1-H12.3.31)

(単位:円)

収入の部		支出の部	
前期繰越見込	1,970,000	振替手数料	45,500
同窓会会費	1,600,000	通信費	246,000
		役員費	730,000
		会議費	90,000
		事務費	60,000
		印刷費	265,000
		雑費	10,000
		予備費	70,000
		小計	1,516,500
		次期繰越	2,053,500
合計	3,570,000	合計	3,570,000

▽▲会費納入のお願い▽▲

会員の皆様方には大変お手数をおかけいたしますが、平成11年度分の会費(¥2,000)を同封の振込用紙にてお振り込みいただきますようお願い申し上げます。請求書を同封しておりますのでご確認下さい。

なお、すでに会費を頂いている方には請求書が同封されておられませんのでご了承下さい。

ご注意ください

★振込用紙が2枚あります

別紙のとおり、「大阪府立大学同窓会 大学創立50周年記念募金事業会」の趣意書および振込用紙が同封されております。

同窓会費は必ず「船舶工学科同窓会」用の振込用紙にて振り込みいただきますようお願いいたします。

訃 報

元教員	山辺 長三郎 先生 (造船2期)	(平成11年5月26日逝去)
元非常勤教員	松浦 義一 先生	(平成11年4月19日逝去)
造船1期	山口 (藤岡) 儀一郎 氏	(平成11年6月12日逝去)
造船2期	国部 淳 氏	(平成10年5月 逝去)
造船4期	桜井 勲 氏	(平成11年2月6日逝去)
大学8期	渡辺 俊彦氏	(平成11年1月14日逝去)

本会はこの訃報に接し、謹んで哀悼の意を表します。

同窓会名称についてのご意見

会誌8号で、学科名称がすでに「海洋システム工学科」になっているので、従来の「船舶工学科同窓会」という名称でいいかどうか、変更するとすればどのような名称がいいかなどをおたずねしましたところ、以下のようなご意見が寄せられました。

これらを参考にして、今後の対応を理事会で話し合いますが、続けてご意見をお寄せ下さい。よろしくお願いします。

- いつまでも同じ大学の体制はあり得ないと思うので、いつの時代にも対応できる通称名「***会」のようなものを望みます。
(大 15)
- 昔は「造船」で、その次は「船舶」になったのですから、今度は「海洋システム」でいいでしょう。後輩が違和感なくとけ込める同窓会という意味でも「海洋システム」が自然ではないでしょうか？ (大 37)
- 名称ね…不都合といっても、特に困ることはないでしょう。このままでいいのではありませんか？ (大21)
- あまり関心がないです。もう少し様子を見てもいいでしょう。(大19)
- どちらでもいいですが、この世の同窓会は「***会」というのが多いですね、お洒落な感じですよ。(大 24)
- 年輩の人には、「船舶」と言う言葉が無くなるのに、かなり抵抗があります。(大5)
- このようなものは時代と共に変わるものですからね。それを受け入れて、若い人が変更したいのであれば、そうしたらどうですか。こだわらずに…。(造3)
- 同期のものでアンケートを実施しました。その結果は、「船舶・海洋システム工学科同窓会」に賛成した人が多かったです。
(造1&大5)
- 変更する必要を認めません。このままでいいでしょう。(大5)
- とにかく慎重に進めて下さい。「船舶」にこだわる人はまだ多いと思いますよ。(大 12)

結局、色々です。現段階では結論を出すのは難しい状況に見えますが…現在のところ提案されている名称を列記しますと、

- 「船舶・海洋システム工学科同窓会」
- 「海洋システム工学科同窓会」
- 「船舶工学科同窓会」 (変更なし)
- 「府大海洋工学・船舶工学科同窓会」
- 「もず かもめ会」
- 「船と海の会」
- 「Marine」 (順不同)

が寄せられております。

大阪府立大学(全学)同窓会・同工学部同窓会関係報告

(1)工学部同窓会理事会報告

日時:平成11年2月20日(土)12:00-13:30

場所:学術交流会館小ホール

出席者:12名

主な議事内容:

- a)3名の理事交代の件, 原案通り承認.
- b)大学創立50周年記念募金事業趣意書(同封別紙)に沿った募金事業を今後実施していくことを承認した.
- c)前項に関連して, 学術交流会館内に事務局設置の許可を大学当局へ申請することを承認した.
- d)全学同窓会と協力して, 非常勤職員の雇用を承認した.

(2)全学同窓会理事会報告

日時:平成11年2月20日(土)14:00-15:00

場所:学術交流会館小ホール

出席者:30名

主な議事内容:

- a)庶務理事, 宮本勝浩氏(経)より, 宮武和孝氏(農)への交代を含めて, 5名の理事交代の件, 原案通り承認.
- b)大学創立50周年記念募金事業趣意書(同封別紙)に沿った募金事業を今後実施していくことを承認した.
- c)前項に関連して, 学術交流会館内に事務局設置の許可を大学当局へ申請することを承認した.
- d)工学部同窓会と協力して, 非常勤職員の雇用を承認した.
- e)趣意書郵送経費節約などで, 下記のような各単位同窓会への今後2年間に亘る募金活動の協力依頼があった.

(方法1)各単位同窓会が会誌や名簿等を発行する際に趣意書および郵便局振り込み用紙を同封し, 郵送する. ただし, 郵送料増加分は申請に基づき全学同窓会が負担する.

(方法2)各単位同窓会の会合時などに募金に対する呼

びかけをお願いする.

(3)全学同窓会学内理事会報告

日時:平成11年7月7日(水)15:00-17:00

場所:学術交流会館特別会議室

出席者:15名

主な議事内容:

報告事項:

- a)同窓会事務局開設の紹介と視察があった.
- b)大学創立50周年記念募金事業趣意書配付状況の報告があった.
- c)平成10年度会計状況の報告があった.
- d)白鷺賞副賞について, 七宝ペン皿から, 50周年記念式典参加者に配付したものと同じオリジナル文鎮(生産技術センター製)へ変更した旨の報告があった.
- e)現在までの募金状況の報告があった(287口143万円余).

協議事項:

- a)単位同窓会への事務局*機能の開放について協議した.
当面, 受益者負担の原則で運用予定(理事会承認後).
- b)名簿などのデータベース化と運用サービスについて協議した.

単位同窓会の現状と全学同窓会への意向(事務労務的な面, 名簿管理等への), 要望を調査し, 今後の方向を宮武庶務理事を中心にとりまとめることとなった.

- c)理事交代の紹介があった.

*大阪府立大学同窓会事務局(学術交流会館内との記載不要とのこと): 木戸氏

(電話&ファックス) 直通:0722-59-9072

内線:2173(0722-52-1161)

[月, 水, 金10時-17時(12時-13時を除く)]



同窓会用メーリングリスト「kamome」のご案内

大阪府立大学工学部船舶工学科同窓会では、平成7年より非公式のメーリングリスト「kamome」を開設し、運営しております。皆さまにも是非ご入会いただき、ホットな話題を提供いただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

・メーリングリストとは

特定の登録会員を対象とした、電子メールの配送システムです。会員がそのメールアドレスに電子メールを送ると、登録した会員全員に電子メールが配送されます。メールの表題には、特定の名称と通し番号が付けられます。また、会員は、コマンドメールを送り、会員名簿の参照や、転送先の変更、過去のメールの取り寄せなどを行うこともできます。

・kamome について

これは、海洋システム工学教室の同窓会用のメーリングリストです。会員は、現在 140 名程度です。平均年齢は約 30 才。同窓会員の動向や雑談、地区別同窓会の案内など、気楽な話題で交流しています。

・kamome の入会方法

下記のアドレスに、入会メールを送ってください。

`kamome-ctl@marine.osakafu-u.ac.jp`

その時、メールの本文には、第 1 行目、第 1 コラムから半角英数文字で

`subscribe`

とだけ書いてください。表題行 (Subject:) は何でも可。

署名は不可。折り返し、`kamome-request` から、`welcome letter` が届きます。入会後は、`kamome` のメールが着信し始めます。

・kamome に投稿するには

`kamome@marine.osakafu-u.ac.jp` 宛てに、適当な表題を付けてメールします。すると、表題の前に続き番号が付けられて、`kamome` の `member` 全員に配送されます。返信も同様です。

・コマンドメールの使い方

上記の `kamome-ctl` 宛てに、本文の第 1 行、第 1 コラムから次のコマンドを一つだけ書いて送ります。タイトル不要、署名不可。すると、そのコマンドの結果が送り返されます。

`# help` (半角の # と、半角空白と、半角 `help`。意味は、コマンドの使い方を送れ。)

`# members` (会員名簿送れ)

`# skip` (投稿可、配送不可する。その取り消しは、`# noskip`)

`# mget 500-600 unpack` (500 番から 600 番までのメールの中身を送れ)

その他、色々便利なコマンドが使えます。`# help` をお試しください。

・kamome に関する問い合わせ

`kamome-request@marine.osakafu-u.ac.jp`

(姫野洋司、会務委員 有馬正和、事務局 太田裕子) まで何なりとメールで問い合わせてください。

・同期生用メーリングリストの設定

同期生でメーリングリストを持ちたいときは、教室のサーバーにそれを設定させていただきます。同窓会までお申し込みください。

編集後記

大阪府立大学旧中央図書館横の水路付近では、メダカの学校ならぬツバメの学校が開設されて、幼鳥たちが飛行訓練を始めたようすです。ツバメは元気ですが、メダカは希少種となりつつあるようすです。希少種といえば、佐渡島のトキ保護センターで、中国産のヨウヨウとヤンヤンが新しい生命を誕生させました。日本産最後の朱鷺キンの生体細胞を保存しておけば、羊のドーリーちゃんのような技術も将来適用されるのですが、それも不自然でしっくりこない……。

(岸)

大阪府立大学船舶工学科同窓会ニュース
「ふね」 第31号

平成11年 8 月 15日 発行

編集発行:大阪府立大学工学部海洋システム工学科気付
船舶工学科同窓会

〒599-8531 堺市学園町 1-1

TEL./FAX. 0722-54-9914

Email: ohta@marine.osakafu-u.ac.jp

郵便振替口座番号 00920-0-3806

印 刷: (株)春日